

授業科目名	【G】 生徒指導論	区分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2		
科目区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独	【G】 教員の免許状取得のための必修科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法							
サブタイトル	生徒指導が何をめざすのか。実践にあたっての留意点や組織的な指導の必要性を学ぶ。			担当者	田中 將之			
授業概要	【概要】	生徒指導の意義・目的・歴史等を概観して知識の土台を固め、現代の学校教育の現状とその課題に関する問題解決能力を高めることを目指す。いじめ・ネットいじめをめぐる問題など、今日的テーマも話題に交え、受講者と積極的に意見交換をしながら授業を展開していく。なお理解促進のため、「小グループ討論」や、教師役・生徒役に分かれての「ロール・プレイング」などを行うこともある。						
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の意義と役割について基本的な知識を理解することができる。 生徒指導の実際について理解するとともに、指導方法を習得し、実際の場面での活用方法の計画を立てることができる。 関係機関との連携を含め、組織的な生徒指導の必要性について理解することができる。 生徒の今日的な成長課題を踏まえた指導のあり方について認識することができる。 学校等で起こっている問題を身近な課題としてとらえ、意見を交換することができる。 						
履修条件	積極的に授業参加し、学ぼうとする意志のある学生、教員採用試験を受験する学生が履修することが望ましい。							
アクティブラーニングの方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との関連性	特になし							
教科書	必要に応じて関係資料等を提示する。							
参考書	文部科学省『生徒指導提要』(改訂版)							
評価方法	授業中に指示するレポート課題・テスト(70%)、受講意欲・グループワーク等を行う際の姿勢・態度(30%)で評価する。なお、予告をせずにノート提出を求められることがあり、提出の有無・内容も評価に入れるものとする。							
フィードバック方法	毎時の評価について、特に良好なものについては、レフレクションカードに良い面を記入して返却する。レポート提出期間経過後に評価ポイントを学生に伝える。テストについては評価の重要点を説明する。							
評価基準	S・A:授業内容をよく理解しており、応用力もある、B:授業内容を理解している、C:最低限の基礎力を備えている、D:基礎力が不足している、E:基礎力が著しく不足している、F:評価不能 欠席時数過多やテストを受けていない場合はF評定とする。							

授業科目名	【G】 生徒指導論	区分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
授業回数	授業内容					
1	オリエンテーション「授業内容と進め方、学び方」、生徒指導とは何か 予習： 生徒指導に関する新聞等報道があれば整理しておく。 復習： 生徒指導の定義を整理し、確認しておく。					
2	生徒指導の意義と目的 予習： 文部科学省の「生徒指導提要」(改訂版)を読み、関連箇所を予習する。 復習： 生徒指導の意義と目的を「生徒指導提要」に沿って、説明できるようにする。					
3	生徒指導の重層的支援構造Ⅰ 発達支持的生徒指導 予習： 文部科学省の「生徒指導提要」(改訂版)を読み、関連箇所を予習する。 復習： 生徒指導の重層的支援構造を「生徒指導提要」に沿って、説明できるようにする。					
4	生徒指導の重層的支援構造Ⅱ 困難課題対応型の生徒指導 予習： 文部科学省の「生徒指導提要」(改訂版)を読み、関連箇所を予習する。 復習： 生徒指導の重層的支援構造を「生徒指導提要」に沿って、説明できるようにする。					
5	「生徒指導提要」が示す生徒指導の方法 予習： 文部科学省の「生徒指導提要」(改訂版)を読み、関連箇所を予習する。 復習： 生徒指導の方法、組織的対応について整理し、まとめておく。					
6	組織的対応における留意点 予習： 生徒指導主事の役割について予習しておく。 復習： 組織的対応における留意すべき点について、まとめておく。					
7	生徒指導と懲戒 予習： 懲戒の種類について、予習しておく。 復習： 懲戒の法的根拠について、整理しまとめておく。					
8	学校と関係機関との行動連携 予習： 授業時の指示を参考にし、関係する資料等を読む。 復習： 各関係機関の強みについて、整理しまとめる。					
9	家庭・地域との行動連携Ⅱ 地域社会との連携の在り方 予習： 地域社会の援助資源には何があるのか、考えておく。 復習： 学校と地域社会との連携の方法について整理し、まとめる。					
10	問題行動への理解とその対応Ⅱ 早期発見の必要性 予習： 早期発見の必要性和効果について、予習しておく。 復習： 問題行動への対応法について、整理しまとめる。					
11	不登校の現状と課題 予習： 授業時の指示を参考にし、不登校に関する書籍等を読む。 復習： 不登校の現状と課題について、整理しまとめる。					
12	不登校への対応 予習： 授業時の指示を参考にし、不登校への対応法について予習をする。 復習： 教師として、不登校にどう対応するのか、整理しまとめる。					
13	いじめの予防と早期対応Ⅰ いじめの定義の変遷 予習： 授業時の指示を参考にし、いじめに関する書籍等を読む。 復習： いじめ防止対策推進法について、整理しまとめる。					
14	いじめの予防と早期対応Ⅱ いじめにどう対応していくか 予習： 授業時の指示を参考にし、いじめへの対応法について予習をする。 復習： 教師として、いじめにどう対応するのか、整理しまとめる。					
15	本授業のまとめ、テスト 予習： これまでの授業内容を復習して、授業に参加する。 復習： テストで出題された事柄を、整理しまとめておく。					
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング型授業を実施することから、座席は指定します。なお、授業の順序、内容は受講者の反応を見極め、変更をすることがある。 ・グループ討論等には積極的に取り組むこと。 授業ごとの予習・復習時間は、各120分程度を目安としてください。					